

新春の慶賀こうじん自他い かん幸甚幸甚。去年来たらい かんず如何。定めて子細有らんか。

抑そもそも参詣を企くわだて候へば、伊勢公の御房に十住心論・秘蔵宝鑰・二教論等の真言の疏しよを借用候へ。是くの如きは真言師蜂起故に之を申す。又止観の第一・第二御隨身候へ。
東春・輔正記とうしゆん ふしょうきなんどや候らん。円智房の御弟子に、観智房かんちぼうの持ちて候なる宗要集しよかした
び候へ。そのみならず、ふみ文の候由も人々申し候ひしなり。早々に返すべきのよし申
させ給へ。

今年ことは殊に仏法の邪正たゞさるべき年か。浄願の御房・義城房等には申し給ふべし。
日蓮が度々殺害せられんとし、並びに二度まで流罪せられ、頸を刎ねられんとせし事は
別に世間の失とがに候はず。生身しょうじんの虚空蔵菩薩より大智慧を給はりし事ありき。日本第一
の智者となし給へと申せし事を不便ふびんとや思し食しけん、明星の如くなる大宝珠を給ひて
右の袖にうけとり候ひし故に、一切経を見候ひしかば、八宗並びに一切経の勝劣粗是を
知りぬ。其上真言宗は法華経を失ふ宗なり。是は大事なり。先づ序分に禅宗と念仏宗
の僻見びやっけんを責めて見んと思ふ。其の故は月氏漢土の仏法の邪正しばらは且く之を置く。日本国
の法華経の正義を失ふて、一人もなく人の悪道に墮つる事は、真言宗が影の身に随したがふ
がごとく、山々寺々ごとに法華宗に真言宗をあひそひて、如法の法華経に十八道をそへ、
懺法せんぼうに阿弥陀経を加へ、天台宗の学者の灌頂かんじょうをして真言宗を正とし法華経を傍とせし
程に、真言経と申すは爾前権経の内の華嚴・般若にも劣れるを、慈覚・弘法これに迷惑
して、或は法華経に同じ或は勝れたりなんど申して、仏を開眼するにも仏眼大日の印真
言をもって開眼供養するゆへに、日本国の木画の諸像皆無魂無眼の者となりぬ。結句は
天魔入り替はって檀那をほろぼす仏像となりぬ。王法の尽きんとするこれなり。此の悪
真言鎌倉かまくらに來たりて又日本国をほろぼさんとす。

其上、禅宗・浄土宗なんど申すは又いうばかりなき僻見報の者なり。此を申さば必ず
日蓮が命と成るべしと存知せしかども、虚空蔵菩薩の御恩をほうぜんがために、建長五
年三月二十八日、安房国東条郷清澄寺道善あ わのくにとうじょうのごうせいちょう じ どうぜんの房の持仏堂の南面にして、浄円房と申
す者並びに少々の大衆にこれを申しはじめて、其の後二十余年が間退転なく申す。或は
所を追ひ出だされ、或は流罪等、昔は聞く不軽菩薩の杖木等を、今は見る日蓮が刀劍
に当たる事を。日本国の有智無智上下万人の云はく、日蓮法師は古いにしえの論師・人師・大
師・先徳にすぐるべからずと。日蓮この不審をはらさんがために、正嘉・文永の大地震
・大長星を見て勘へて云はく、我が朝に二つの大難あるべし。所謂自界叛逆難・他
国侵逼難こくしんびつなんなり。自界は鎌倉かんがに権の大夫殿、御子孫どうち出来すべし。他国侵逼難は四
方よりあるべし。其の中に西よりつよくせむべし。是偏ひとえに仏法が一国こぞ挙りて邪よこしまなる
ゆへに、梵天帝釈ぼんてんたいしゃくの他国に仰せつけてせめらるゝなるべし。

日蓮をだに用ひぬ程ならば、将門・純友・貞任・利仁・田村のやうなる將軍百千万人ありとも叶ふべからず。これまことならずば、真言と念仏等の僻見をば信ずべしと申しひろめ候ひき。就中、清澄山の大衆は日蓮を父母にも三宝にもをもひをとさせ給はず、今生には貧窮の乞者とならせ給ひ、後生には無間地獄に墮ちさせ給ふべし。故いかんとなれば、東条左衛門景信が悪人として清澄のかいしゝ等をかりとり、房々の法師等を念仏者の所従にしなんとせしに、日蓮敵をなして領家のかたうどとなり、清澄・二間の二箇の寺、東条が方につくならば日蓮法華經をすてんとせいじょうの起請をかいて、日蓮が御本尊の手にゆいつけていのりて、一年が内に両寺は東条が手をはなれ候ひしなり。此の事は虚空蔵菩薩もいかでかすてさせ給ふべき。大衆も日蓮を心へずにもはれん人々は、天にすてられたてまつらざるべしや。かう申せば愚癡の者は我をのろろと申すべし。後生に無間地獄に墮ちんが不便なれば申すなり。

領家の尼ごぜんは女人なり、愚癡なれば人々のいひをどせば、さこそとましまし候らめ。されども恩をしらぬ人となりて、後生に悪道に墮ちさせ給はん事こそ不便に候へども、又一つには日蓮が父母等に恩をかほらせたる人なれば、いかにしても後生をたすけたてまつらんとこそいのり候へ。

法華經と申す御經は別の事も候はず。我は過去五百塵点劫より先の仏なり、又舍利弗等は未来に仏になるべしと。これを信ぜざらん者は無間地獄に墮つべし。我のみかう申すにはあらず、多宝仏も証明し、十方の諸仏も舌をいだしてかう候。地涌千界・文殊・観音・梵天・帝釈・日・月・四天・十羅刹、法華經の行者を守護し給はんと説かれたり。されば仏になる道は別のやうなし。過去の事、未来の事を申しあてゝ候がまことの法華經にては候なり。

日蓮はいまだつくしを見ず、えぞをしらず。一切經をもて勘へて候へばすでに値ひぬ。もししからば、各々不知恩の人なれば無間地獄に墮ち給ふべしと申し候はたがひ候べきか。今はよし、後をごらんぜよ。日本国は当時のゆき対馬のやうになり候はんずるなり。其の後、安房国にむこが寄せて責め候はん時、日蓮房の申せし事の合ふたりと申すは、偏執の法師等が口すくめて無間地獄に墮ちん事不便なり不便なり。

正月十一日

日蓮花押

安房国清澄寺大衆中

このふみは、佐渡殿とすけあざり御房と虚空蔵の御前にして大衆ごとによみきかせ給へ。